



中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日



特種東海製紙株式会社

TOKUSHU TOKAI PAPER CO.,LTD.



Top Message



代表取締役社長 三澤 清利

株主の皆様におかれましては、平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第4期中間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の報告書をお手許にお届け申し上げます。

さて、当社は平成22年6月24日開催の第3回定時株主総会決議により、平成22年7月1日をもって「特種東海ホールディングス株式会社」から「特種東海製紙株式会社」へ商号変更いたしました。これを機に役員および社員一同、気持ちを新たに社業の発展に専心努力する所存でございますので、何卒、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Top Interview

「特種東海製紙株式会社」となり、独自性・独創性の高い、ユニーク且つ存在感のある企業集団として社会および自然環境保護へのさらなる貢献を目指します。

平成22年4月1日に持株会社であった特種東海ホールディングス株式会社は子会社の特種製紙株式会社と東海パルプ株式会社を吸収合併し、平成22年7月1日に商号を「特種東海製紙株式会社」に変更しました。

新たな歴史の一歩を踏み出したところで、三澤社長に第2四半期決算の内容や通期の見通し、組織体制などについて聞きました。

Q 第2四半期決算の内容について聞かせてください。

A 当第2四半期の国内経済は、輸出産業を中心に一部では持ち直しの動きもみられましたが、依然として厳しい雇用情勢、急速な円高の進行などにより、先行の不透明感が増しながら推移しました。このような中、当社グループは、原価低減活動や生産効率の改善などを推進し、収益の確保に取り組みました。

産業素材事業では、主力製品である段ボール原紙が、景気回復傾向に伴う需要の回復に加えて、猛暑による飲料関連の需要増に支えられたことにより、堅調に推移しました。クラフト紙についても同様の傾向で推移し、両製品ともに販売数量は前年同期を上回りました。

特殊素材事業では、特殊機能紙については、全般的に需要が回復したことから、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。一方、特殊印刷用紙については、主力製品であるファンシーペーパー、高級印刷用紙ともに、出版・商業印刷等の需要低迷により、販売数量・金額ともに前年同期と比べ減少しました。

生活商品事業では、ペーパータオルが販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

この結果、当第2四半期での連結業績は、売上高40,296百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益2,400百万円（前年同期比44.0%増）、経常利益2,338百万円（前年同期比54.8%増）となり、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額、減損損失を特別損失に計上したことなどにより、四半期純利益は419百万円（前年同期比51.8%減）となりました。

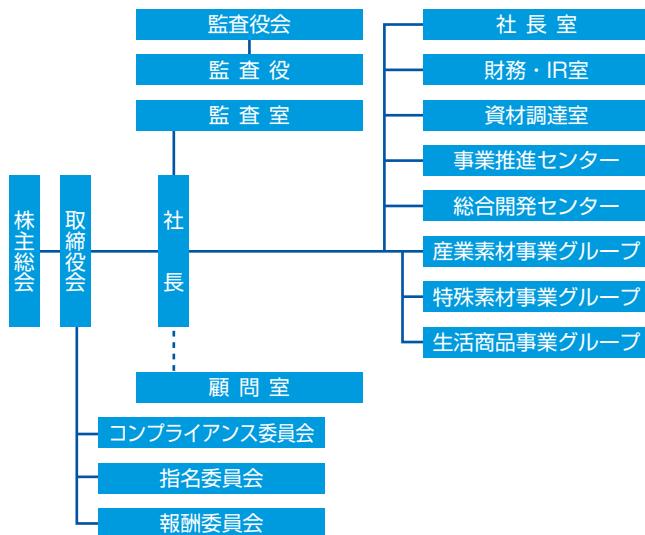
Q 通期業績について聞かせてください。

A 先行き不透明な経済状況下で、当社としては原材料の価格上昇リスクや販売価格の変動リスクがある中、引き続いて原価低減活動や経費削減、生産効率の改善に取り組み、売上高81,000百万円、営業利益4,300百万円、経常利益3,700百万円、当期純利益1,500百万円を予測しています。

Q 新会社の組織体制について聞かせてください。

A 当社グループは、主に紙の生産・加工・販売に関する事業を行っており、取り扱う紙製品の種類ごとに包括的な事業戦略を立案できるよう事業グループ制を採用しています。「産業素材事業グループ」、「特殊素材事業グループ」、「生活商品事業グループ」の3事業グループから構成し、「産業素材事業」は主に段ボール・包装用紙、「特殊素材事業」は特殊印刷用紙・特殊機能紙、「生活商品事業」はペーパータオル・トイレトペーパーなどをそれぞれ生産・加工・販売しています。

組織図 (平成22年9月末現在)



Q 今後の事業展開についてお聞かせください。

A 昨今の経営を取り巻く環境は不安定で、先行き不透明な状況の中、従来の経営手法を延長するだけでは、これまで以上の利益を確保し、さらに発展させていくことは極めて難しく、新たな成長路線を達成するには「4つの鍵」があると考えています。

第1の鍵は「新製品の開発と発売」、第2の鍵は「他社・他産業との提携」、第3に「海外展開」、第4に「環境事業の推進」、この4点が鍵となると考えています。

既存市場の需要が縮小傾向にあるとともに、紙から電子媒体へのシフトが進む中、電気・電子・電池・自動車業界関連など新たなニーズに合わせた開発と新たな市場の開拓を模索し、既存商品の機能向上や用途展開による進化と深化を目指します。

また、海外展開ではアジア圏を中心に当社の製紙技術についてお問い合わせいただいています。例えば中国・台湾などでは、ガラス合紙をはじめとした特殊機能紙のニーズが拡大しており、ハイレベルな特殊紙技術は、海外でも評価いただけると確信しています。

環境事業では森林再生の事業化を考えています。当社は7,400万坪に及ぶ山林があり、間伐材をチップ化し紙を作り、紙の販売代金の一部で森林整備を行うような森林再生サイクルの構築を模索しています。そのためには、例えば産・学・官の連携によるシステム作りなどの検討も行っています。

Q コーポレートガバナンス体制についてお聞かせください。

A 当社は、法令遵守を念頭に、企業価値増大に向けた健全な経営管理を行うとともに、ステークホルダーから信頼、支持され続ける企業であるため、迅速性、効率性、透明性の高いコーポレートガバナンス体制の確立と、その強化、充実に努めてまいります。

また、法定の機関とは別に、取締役会の諮問機関として半数以上が社外委員で構成する指名委員会、報酬委員会、コンプライアンス委員会を設置しております。それぞれの委員会は、役員の選任・解任及び役員報酬の水準・体系等の適切性についての審議ならびにグループ全体のコンプライアンス統括を行っております。

連結財務ハイライト

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期 第2四半期
【経営成績】				
売上高 (百万円)	87,332	85,117	78,063	40,296 (81,000)
営業利益 (百万円)	439	629	4,331	2,400 (4,300)
経常利益 (百万円)	179	183	4,012	2,338 (3,700)
四半期(当期)純利益又は当期純損失(△)(百万円)	△851	119	1,792	419 (1,500)
1株当たり四半期(当期)純利益 又は当期純損失(△) (円)	△5.36	0.74	11.26	2.63
自己資本四半期(当期)純利益率 (%)	△1.4	0.2	3.0	0.7
総資産経常利益率 (%)	0.1	0.1	3.0	1.8
売上高営業利益率 (%)	0.5	0.7	5.5	6.0
【財務状況】				
総資産 (百万円)	136,311	133,116	131,355	126,930
純資産 (百万円)	61,985	58,431	59,978	59,281
自己資本比率 (%)	45.4	43.7	45.5	46.5
【キャッシュ・フロー状況】				
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	6,608	4,923	8,402	3,656
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△8,977	△6,838	△4,424	△2,303
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	2,376	7,117	△2,794	△4,053
現金及び現金同等物四半期末(期末)残高(百万円)	3,744	8,932	10,108	7,421

() 内は通期業績予想



第2四半期連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	42,994	44,316
固定資産	83,936	87,038
有形固定資産	69,375	71,195
無形固定資産	964	1,007
投資その他の資産	13,596	14,836
① 資産合計	126,930	131,355
(負債の部)		
流動負債	49,659	51,697
固定負債	17,990	19,679
② 負債合計	67,649	71,377
(純資産の部)		
資本金	11,485	11,485
資本剰余金	14,463	14,481
利益剰余金	34,403	34,381
自己株式	△1,093	△1,146
評価・換算差額等	△252	499
新株予約権	70	79
少数株主持分	204	197
③ 純資産合計	59,281	59,978
負債及び純資産合計	126,930	131,355

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

- ① 資産合計
総資産は、126,930百万円となり、前連結会計年度末に比べて4,424百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少によるものです。
- ② 負債合計
負債は67,649百万円となり、前連結会計年度末に比べて3,727百万円の減少となりました。主な要因は、借入金の減少によるものです。
- ③ 純資産合計
純資産は59,281百万円となり、前連結会計年度末に比べて697百万円の減少となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の減少によるものであります。自己資本比率は46.5%となり、前連結会計年度末に比べ1.0ポイント上昇しました。

第2四半期連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)
④ 売上高	40,296	38,436
売上原価	31,797	30,556
売上総利益	8,498	7,879
販売費及び一般管理費	6,098	6,212
営業利益	2,400	1,666
営業外収益	340	317
営業外費用	402	473
経常利益	2,338	1,510
特別利益	20	102
⑤ 特別損失	1,061	68
税金等調整前四半期純利益	1,296	1,545
法人税等	868	664
少数株主損益調整前四半期純利益	-	428
少数株主利益	8	10
四半期純利益	419	870

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年11月9日 取締役会	普通株式	398	資本剰余金	2.5	平成22年9月30日	平成22年12月9日

Point

- ④ 売上高
売上高40,296百万円の内訳は産業素材21,573百万円、特殊素材11,219百万円、生活商品8,204百万円、その他4,365百万円に調整額△5,067百万円となっています。
- ⑤ 特別損失
平成23年3月期より「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」の適用に伴い、期首時点で発生する影響額を特別損失に計上しました。これは、石綿障害予防規則等に基づくアスベスト除去義務に係る費用等です。なお、資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う特別損失の計上は748百万円です。また、この他に減損損失257百万円を計上しています。

●新製品のご紹介

ミスেসBグリーン — 11月5日発売

『ミスেসBグリーン』はグリーン購入法に適合しながら緻密な表現力としなやかな触感を併せ持つ高級印刷用紙です。当製品は企業のCSRレポートや環境報告書など環境への取組みを示す印刷物への用途展開を期待しております。



ミスেসBグリーン

●森林整備進行中（井川山林）

南アルプス大井川源流部に広がる当社所有林「井川山林」は、その面積と標高の高さで日本一の所有林です。井川山林では創業以来木材生産を行ってきましたが、昭和57年の台風災害をきっかけに木材生産事業を中断し、以降は人工林を中心に間伐等の森林整備を行い、木材資源の充実と森林の公益的機能の発揮をはかっているところです。平成22年度は、政府の森林整備加速化・林業再生事業の補助金を活用し、約160ヘクタールという大規模な間伐を行うこととなりました。

井川山林では積雪期の作業は困難であることから、すべての作業を年末までに完了しなければなりません。



整備の様子

現場では、間伐現場へと続く管理道路の整備や作業区画の測量、標準地の設定など、準備作業が急ピッチで進められています。

●紙わざ大賞選抜作品展 開催

9月1日から10月29日まで、東京本社ショールームにて「第20回紙わざ大賞選抜作品展」を開催いたしました。「紙わざ大賞」とは静岡県島田市の市民グループ「島田紙わざ探検隊」が主体となり開催している一般公募のペーパーアートコンクールで、紙の持つ可能性を感じずにはいられない作品30点あまりを展示し、一般の方々にも公開いたしました。



東京本社ショールーム

●紙のポータルサイト「特種のタネ」リニューアル

平成22年11月にWEBサイト「特種のタネ」を全面リニューアルしました。「特種のタネ」では特殊紙のバイオニアである当社のおよみ、機能紙の種類や特長、製品などについて紹介しています。紙で解決できる意外な特徴や用途、紙を製造する上での工夫など、わかりやすく、機能紙に興味を持っていただけるよう説明しています。また、平成23年初春にはファンシー

特種のタネ

<http://portal.tt-paper.co.jp/>



ペーパーのページもオープン予定で、紙のポータルサイトとしてお客様の課題を解決できるサイト作りを目指しています。

第4期中間配当金について

当社は、平成22年11月9日開催の取締役会において、第4期中間配当として1株当たり2円50銭をお支払いすることを決議し、平成22年12月9日より配当金のお支払いを開始させていただきます。

今回の配当金は「その他資本剰余金」を配当原資とするため「資本の払戻し」に該当し、「利益剰余金」を配当原資とする配当とは税金計算上の取扱いが異なります。

本中間報告書と同封しております「第4期中間配当に関するご説明」をご高覧いただけますようお願い申し上げます。

なお、弊社ホームページでも配当に関するご説明とFAQを掲載しておりますので、ご案内申し上げます。



<http://www.tt-paper.co.jp/>

会社概要 (平成22年9月30日現在)

商号	特種東海製紙株式会社
英文名	Tokushu Tokai Paper Co., Ltd.
事業内容	紙パルプの製造・加工・販売および子会社の経営管理等
資本金	1,148,520万円
事業年度	4月1日から翌年の3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部（コード：3708）
設立年月日	平成19年4月2日
本店	静岡県島田市向島町4379番地
本社	東京都中央区八重洲2丁目4番地1号
事業所	大阪営業所、 中部営業所、中部営業所静岡事務所、 三島工場、島田工場、横井工場、岐阜工場

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	三澤 清利
専務取締役	石橋 達彦
専務取締役	三浦 凡宗
専務取締役	三宅 博
常務取締役	池谷 修
常務取締役	梅原 淳
取締役	関根 常夫
取締役	大島 一宏
取締役（社外取締役）	石川 達紘
常任監査役（常勤監査役）	三谷 充弘
常勤監査役	網野 隆
監査役（社外監査役）	大倉 喜彦
監査役（社外監査役）	志賀 こそ江

グループ企業 (平成22年9月30日現在)

会社名	主な事業
株式会社リソース東海	製紙原料の仕入・販売、製材品の仕入・販売
株式会社東海フォレスト	土木、造園緑化、山林事業、観光
株式会社レックス	一般廃棄物・産業廃棄物の収集、運搬、加工処理および売買
株式会社テクノサポート	構内作業業務、設備保全業務、重油・産廃運搬業務
大ーコンテナー株式会社	段ボールケース・シートの製造販売
静岡ロジスティクス株式会社	運送業、倉庫業、保険代理業、リース業、酒類販売
特種紙商事株式会社	特殊機能紙・保護紙・画材用紙・エレクトロニクス関連用紙・加工品等の販売
特種メーテル株式会社	特殊紙製造、医療用機能性シート、緩衝・保護包装紙の製造・販売
東海加工紙株式会社	ペーパータオルなど各種業務用品の製造、販売、各種産業用資材の加工、販売
明治製紙株式会社	家庭紙（トイレット、タオルペーパー）の製造販売、中芯原紙の製造販売

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料、平日9:00~17:00)
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

（上記は、特別口座に記録された株式に関する各種手続き先ならびに郵送物等の発送と返戻、支払期間経過後の配当金および株式事務に関する一般事項のご照会先となっております。ご登録住所等の変更手続きをされる場合は、お取引口座のある証券会社等へお問合せください。）

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

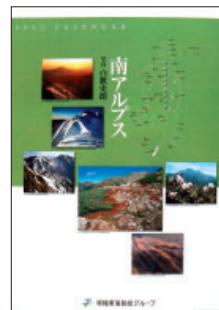
公告方法 弊社ホームページ上に掲載
<http://www.tt-paper.co.jp/ir/denshi.html>
ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主優待品のご案内

当社特製カレンダーの送付について

このたび、平成22年9月30日現在の株主名簿で1,000株（1単元）以上を保有する株主様へ、日頃のご厚情への感謝のしるしとして、『特製カレンダー』をお贈りさせていただきます。

このカレンダーには、山岳写真家として世界的に有名な白嶺史朗氏が、南アルプスに広がる社有林の中で撮影した山の写真を用いております。また、このカレンダーのすべての用紙は当社グループで製造した紙を使用しております。1年間を通じてご愛用いただければ幸いです。



特種東海製紙株式会社
TOKUSHU TOKAI PAPER CO., LTD.

表紙：兎岳から赤石岳に続く稜線を望む
撮影：白嶺史朗
用紙：ミセスBグリーン
ホワイト